

ガラテヤの信徒への手紙

ガラテヤの信徒への手紙は、異邦人信徒が神の民に属するために割礼と他の境界標識を採用しなければならないのかという危機に答えます。



解釈にもとづく再構成。正確な部屋と助手は再構成です。パピルスを用意的に白紙にして、手紙の言葉を勝手に書き加えないようにしています。

年代・確度：推定される

紀元48～49年頃

北ガラテヤを宛先とする見方、またはより遅い南ガラテヤ年代を採ると、この手紙は50年代へ移ります。宛先も執筆都市も手紙には明記されていません。

場所・確度：推定される

未確定（シリアのアンティオキアが候補）

北ガラテヤを宛先とする見方、またはより遅い南ガラテヤ年代を採ると、この手紙は50年代へ移ります。宛先も執筆都市も手紙には明記されていません。

前後の出来事

- ① 紀元46～48年頃 パウロはデルベで多くの弟子を得る。帰路では諸教会を力づけ、長老たちを任命する。
デルベ→リストラ→イコニオン→ピンディアのアンティオキア・本文で確かめられる
- ② 紀元48年頃 パウロはアンティオキアへ帰り、神が異邦人に信仰の門を開いたと報告する。
ベルゲ→アタリア→アンティオキア・本文で確かめられる
- ③ 紀元48／49年頃 パウロはバルナバ、テトスと共にエルサレムへ上る。指導者たちに福音を示し、協力のしるしとして右手を差し出される。
エルサレム・本文で確かめられる
- ④ 紀元48／49年頃 パウロは、異邦人との食卓の交わりから退いたペトロを非難する。
アンティオキア・本文で確かめられる
- ⑤ 紀元48／49年頃 パウロはおそらくガラテヤの信徒への手紙を書く（早期年代説／南ガラテヤ説）。
アンティオキア・推定される
- ⑥ 紀元49年頃 エルサレム会議――異邦人に割礼は不要と決定する。
アンティオキア→エルサレム・本文で確かめられる
- ⑦ 紀元49年頃 パウロは会議の書簡を携えて戻り、教会は喜ぶ。
アンティオキア・本文で確かめられる

本文から確かめられること

本文で確かめられる

ガラテヤの信徒への手紙は、異邦人信徒が神の民に属するために割礼と他の境界標識を採用しなければならないのかという危機に答えます。

受取人は「ガラテヤの人々」と呼ばれる諸教会ですが、手紙は個々の受取人の町を挙げていません。

主な再構成

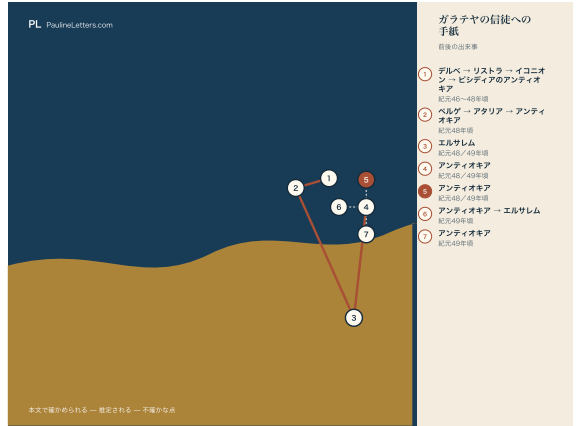
早い南ガラテヤ説は、第一回旅行の後、割礼をめぐる論争の近くの西暦48～49年ごろに置きます。執筆地は記されず、アンティオキアはその再構成の中での提案です。

北ガラテヤを宛先とする見方、またはより遅い南ガラテヤ年代を採ると、この手紙は50年代へ移ります。宛先も執筆都市も手紙には明記されていません。

考える別の読み方

北ガラテヤ説は、後の宣教活動で訪れた民族としてのガラテヤ地域の諸共同体を受取人と見ます。

南ガラテヤ宛と見る場合でも早い年代が必須になるわけではなく、後の活動の後に第一回宣教旅行の諸教会へ宛てたと考えることができます。



10分で紹介するための流れ

- ガラテヤの信徒への手紙は、異邦人信徒が神の民に属するために割礼と他の境界標識を採用しなければならないのかという危機に答えます。
- 早い見方では、ガラテヤの信徒への手紙は第一回旅行とアンティオキアの対立の後、エルサレム会議の近くにあります。後の見方は、さらなる宣教活動の後に置きます。
- 早い南ガラテヤ説は、第一回旅行の後、割礼をめぐる論争の近くの西暦48～49年ごろに置きます。執筆地は記されず、アンティオキアはその再構成の中での提案です。
- 北ガラテヤ説は、後の宣教活動で訪れた民族としてのガラテヤ地域の諸共同体を受取人と見ます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第19章「ガラテヤの信徒への手紙」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

F. F. Bruce, The Epistle to the Galatians: A Commentary on the Greek Text, NIGTC (Eerdmans, 1982). 南ガラテヤ説と早期年代説の最も充実した現代の論証。 — 序論 II.3 「南ガラテヤ仮説」；V 「成立年代と関連する問題」

この箇所は、ここで示す再構成に関わる研究上の論点を示します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。